

動物のコロナウイルス感染症(2)

WHO（世界保健機関）は「新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の発生源はコウモリなどの動物である可能性が極めて高い」と指摘しています。本来コロナウイルスは種特異性が強く、種を超えての感染は起こりにくいとされていますが、まれに他の種に移りやすい株に変異することがあります。今回の SARS-CoV-2 も感染力や病原性を増しながら変異したものと考えられています。こうして新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はパンデミック（世界的感染）となり重篤な症状を示し多数の死者を出すこととなりました。コロナウイルスが原因のパンデミックは過去にもあります。2002 年の重症急性呼吸器症候群（SARS）はコウモリ由来、2012 年の中東呼吸器症候群（MERS）はラクダ由来と考えられています。

新型インフルエンザはパラミクソウイルスですが、鳥由来のものや豚由来のものがパンデミックを起こしま

した。エボラ出血熱・マールブルグ病もサルから感染後、人から人にパンデミックを引き起こしたウイルス起因の感染症です。後天性免疫不全症候群（AIDS）もまたパンデミックとして知られていますが、このレトロウイルスの由来は西アフリカのサルではないか？とも考えられています。

このようなパンデミックは、どうすれば防げるのか。そのキーワードとして今、注目されているのが「ワンヘルス（One Health）」という考え方です。One Health は「人、動物、地球環境という生態系」この3つの健康を、一つのものとし国家を超えて地球規模で守っていこう、とする動きです。2015 年には「One Health のための医師と獣医師による協力体制の実現」が決議されました。

COVID-19 は犬や猫などペットに感染しても症状がほとんどでません。しかし、ウイルスは他の動物種に

動物の新型コロナウイルス感染症 ～現状と対策 「ワンヘルス」の実践



文・写真 中西章男
text & photo by Akio Nakanishi



感染するとその動物の中で変異して毒性や感染力を増強し、さらには再び人に移るものに変異し、それがまた新たなパンデミックとして脅威になることが危惧されているのです。

ですから、我々獣医師は動物たちに極力感染させないように心がけなければなりません。私の動物病院では COVID-19 に感染した飼い主さんのペットをお預かりする際には、シャンプーをして体に付着しているかもしれないウイルスを洗い流してからお預かりしています。それは動物が感染しているかどうかにかかわらず、

物としてウイルスの付着は免れないと考えているからです。そのことによりスタッフや入院している他の動物、さらには来院する飼い主さんとペットたちへの感染が最小限になるように努めています。

皆さんも、普段からペットと接する際には過剰なふれあいを避け、手洗いなどをきちんと行い、COVID-19 に限らず他の「人と動物の共通感染症」からも、ご自身の健康を守っていただければと思います。これが「One Health」としての一つの行動になるのです。



Profile

獣医師・獣医学博士。1959 年生。1986 年日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）大学院博士課程卒。大学ではフィラリア症の血行動態、腫瘍および外科の免疫について研究。1987 年東京都杉並区で「阿佐谷ペットクリニック」を開院。小動物の総合診療医として犬猫のみならずウサギ、小鳥、ハムスター、モルモットなど数々の動物を診療してきた。趣味：ゴルフ、モータースポーツ、機械いじり、動物たちとの戯れ。著書：『車イスに乗ったチロ』集英社